

黄桜記念館と河童ギャラリー

黄桜は日本全国でよく知られた名前、そのブランドマスコットのいたずら好きな水の精、カッパとは、切っても切れない関係にある。カッパギャラリーは、神話上の生き物に着目したコレクションの宝庫である。

展示は、黄桜を有名にしたキャラクターを作成した2人のアーティスト、清水崑（1912-1974）と小島功（1928-2015）の紹介で始まる。清水は、酒を愛する健全な水の精の家族を形にして、黄桜のマスコットを作ってほしいと依頼されたとき、カッパを描く漫画家としてすでに有名だった。清水の死後、小島が引き継ぎ、カッパを優しく挑発的で官能的なスタイルで描いた。

ギャラリーには、日本のテレビ初期にさかのぼるテレビコマーシャル、「酒は黄桜」の魅力的なシリーズが展示されている。1950年代のチャーミングなカッパの家族が日本酒を楽しむ清水の漫画で始まり、忍者と戦う侍、茶屋で黄桜を注ぐ芸者、そして1970年代から80年代の俳優がホストとなって黄桜を称賛するコマーシャルが、すべて懐かしい演歌とともに放映されている。

隣の部屋には、世界中のカッパや、カッパにまつわる博物館、お祭り、伝説、さらには目撃情報の記録の展示などがある。